

## PIERIA 料理イタリア語文法講座 レベル2 第5課

### 5.1. 代名小詞 **ci(vi)**, **ne** の機能と形態

#### 5.1. **ci(vi)**の機能 ⇒ 原則として「a+アルファ」を受ける

- 1) 「～へ」と方向性を表す前置詞句を受ける。

Vai alla stazione? **Ci** vado anch'io.

(君は駅へ行くの？ 僕も行きます)

\* 「a+アルファ」のみならず、「～へ」を表すその他の前置詞句でも、同じように **ci** を使うことができます。

Va in Italia? **Ci** andiamo anche noi.

(イタリアに行くんですか、私たちもそこに行くんです)

Prima rosolate la cipolla in una casseruola, e **ci** aggiungete la pancetta.

(まず玉ねぎをゆっくりとソテーし、そこにパンチェッタを加えます)

- 2) **a** で始まる前置詞句を受ける。

この用法では、動詞や形容詞が前置詞 **a** を要求するということを知っておかなくてはなりません。

Lui riesce a distinguere le differenze tra vini, ma io non **ci** riesco.

(彼はワインの違いが分かるが、私にはわからない)

\* この文の場合、ベースとして、**riuscire a ...** (～に成功する) があります。**ci** はこの文では **a distinguere** 以下を受けているわけです。

Maria compra una lavastoviglie. - Non **ci** credo!

(マリアが食器洗浄機を買うんですって) (信じられません！)

\* この文の場合、ベースとして **credere a ...** (～を信じる) があります。

**ci** と **vi** は同義ですが、**vi** が用いられるのは、書き言葉や **ci** が2回続くとき、語調が悪いときなどです。

#### 5.2. **ne** の機能 ⇒ 原則として「di+アルファ」を受ける

(略)

## 練習問題 (5)

I 次のイタリア語文を日本語に訳すこと。

- 1) Questa signorina ha mangiato finora quattro pizze.
- 2) A Emanuele piace la polenta e ne parla sempre.

(略)

II 次の日本語をイタリア語に訳しなさい。

- 1) ケーキをもう1 カット(fetta)いかがですか?  
— いいえ、結構です。私はもうたくさん食べました。(ne を使って)
- 2) 君はシチリアへ行ったことがあるかい?  
— ええ、3ヶ月前前に行きました。いわしのパスタ(pasta con le sarde)を食べました。

(略)

### 【コラム 5 : 過去分詞から生まれた料理用語】

とうとう過去分詞を勉強したので、過去分詞から生まれた料理用語をご紹介します。とても有名で、もはや日本語にもなっているものをピックアップしました。

基本的な流れとしては、まず過去分詞から、「～される」を意味する形容詞が発生します。これは英語も同じですね。そこから「～されたもの」という数々の料理が生まれています。

#### エスプレッソ (espresso : esprimere の過去分詞)

入門第3課のコラムで取り上げましたね。espresso とは、esprimere の過去分詞でもっとも「搾り出す」という意味でした。そこから「急行の」となりコーヒーを指すことになりました。

#### フリット (fritto : friggere の過去分詞)

fritto di funghi きのこのフリット、fritto misto ミックスフライなど様々な料理があります。fritto は、名詞について調理法を表す形容詞としても必須単語です。patate fritte は「フライドポテト」、uova fritte は「目玉焼き」です。

(略)